



平成27年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年9月8日
東証マザーズ

上場会社名 株式会社ストリーム 上場取引所
コード番号 3071 URL <http://www.stream-jp.com/>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)劉 海濤
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)土屋 敏 (TEL) (03) 6858-8189
四半期報告書提出予定日 平成26年9月12日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年1月期第2四半期の連結業績(平成26年2月1日～平成26年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年1月期第2四半期	10,786	47.8	10	—	26	—	104	—
26年1月期第2四半期	7,299	△40.0	△164	—	△161	—	△140	—

(注) 包括利益 27年1月期第2四半期 96百万円(—%) 26年1月期第2四半期 △107百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年1月期第2四半期	4 45	4 16
26年1月期第2四半期	△7 06	—

(注) 当社は、平成26年2月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割、平成26年8月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年1月期第2四半期	3,839	932	22.6
26年1月期	3,110	781	24.5

(参考) 自己資本 27年1月期第2四半期 866百万円 26年1月期 761百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年1月期	—	0 00	—	0 00	0 00
27年1月期	—	0 00			
27年1月期(予想)			—	0 00	0 00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年1月期の連結業績予想(平成26年2月1日～平成27年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,646	23.7	379	—	372	—	286	—	12 19

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成26年2月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割、平成26年8月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。平成27年1月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、当該分割を考慮した額を記載しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 1社(社名)株式会社エックスワン、除外 一社 : 有
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年1月期2Q	24,950,000株	26年1月期	24,950,000株
② 期末自己株式数	27年1月期2Q	1,476,500株	26年1月期	1,476,500株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年1月期2Q	23,473,500株	26年1月期2Q	19,898,500株

(注) 当社は、平成26年2月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割、平成26年8月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成26年9月18日(木)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成26年2月～7月)におけるわが国経済は、政府による各種政策の効果により、企業業績の回復、雇用情勢の改善がみられる等、国内景気は穏やかな回復基調が続いております。個人消費につきましても、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により消費マインドの低下があったものの、持ち直しの動きがみられております。

このような経済環境の中、当社が属する家電小売業界におきましては、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により需要が減少したものの、エアコン、冷蔵庫、洗濯機といった主力白物家電等、平均価格が前年より上昇している商材も見受けられます。また、薄型テレビの大型画面(50型以上)や4K対応テレビへの関心が強まっており、売れ筋商材となっております。

当社のインターネット通販事業につきましても、前期より効率的な販売促進を図るため、市場価格への迅速な対応や、仕入先とのデータ連携の強化による取扱アイテム数の増加、在庫の適正化等の施策継続を推進し、主要商品群の売上動向につきましては前年同四半期比で、家電88.1%増、パソコン275.8%増、周辺機器・デジタルカメラ34.4%増と前年の実績を大きく超え、売上高は堅調に推移いたしました。

費用面につきましては、売上高の増加に伴い荷造発送費が前年同四半期比49.1%増、広告宣伝費が前年同四半期比52.6%増、支払手数料が前年同四半期比43.0%増となり、販売管理費合計では前年同四半期比27.0%増となりました。

その結果、インターネット通販事業における売上高は10,044百万円(前年同四半期比58.1%増)、営業利益89百万円(前年同四半期は220百万円の営業損失)となりました。

インターネット通販事業の売上・来店客数推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	来客数(千人)	受注件数(千件)	会員数(千人)
当第2四半期連結累計期間	10,044	89	8,496	405	7,748
前第2四半期連結累計期間	6,351	△220	27,794	313	7,116

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第2四半期連結累計期間	5,163	721	2,464	1,694	10,044
前第2四半期連結累計期間	2,745	192	1,834	1,580	6,351

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

※会員数は顧客情報を登録頂いている顧客数の累計です。

※前連結会計年度(平成26年1月期)より、来客数は集計精度の向上を図るため集計方法を変更しております。

その他事業につきましては、平成26年2月3日に化粧品、健康食品を中心とした生活必需品の会員制無店舗販売を営む株式会社エックスワンの株式(発行済株式の80%)を取得し連結子会社といたしました。

売上高につきましては、3月に増税前の駆け込み需要により大きく実績を伸ばしたものの、4月以降はその反動により販売が伸び悩みました。主な部門別の売上高はパーソナルケア(化粧品)部門が485百万円、ヘルスケア(健康食品)部門が188百万円、その他部門が86百万円となりました。

なお、その他事業においては、会員からの年間更新料の収入(前年実績81百万円)が10月にあることから、第3四半期連結会計期間に売上高が増加する傾向にあります。他方、営業費用は、商品カタログの制作代金や会員向けセミナーの開催費用等(本年実績70百万円)が第1四半期及び第2四半期連結会計期間に先行して発生するという季節的要因(費用と収入の発生時期のズレ等)の影響があります。

その結果、その他事業における売上高は759百万円、営業損失77百万円となりました。

また、当社は平成26年6月27日付「5173.Com Holdings Limitedとの業務提携に関するお知らせ」及び同年8月20日付「ストリームのオンラインゲーム事業第1弾—中国で『三国志戦姫』を独占配信」でお知らせしましたとおり、中国において7千万人の登録ユーザーを持つ最大規模のネットゲーム取引業者5173.Com Holdings Limited(以下、「5173.Com」)と包括的な業務提携契約を締結し、株式会社DMM.comラボ(東京都渋谷区)との間でゲームソフトウェアのライセンス契約を締結、同社の人気ゲーム『三国志戦姫』を5173.Comを通じて中国で独占配信することとなりました。

今後は当社の主力事業である「インターネット通販事業」、連結子会社であるエックスワンによる「化粧品・健康食品販売事業」及び平成26年1月14日付「第三者割当による新株式及び新株予約権の発行並びに主要株主の異動に関するお知らせ」で公表しております「ネット通販支援事業」並びに「オンラインゲーム事業」等、事業の多角化を推進し、企業価値の向上を図ってまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は10,786百万円(前年同四半期比47.8%増)、営業利益10百万円(前年同四半期は164百万円の営業損失)、経常利益26百万円(前年同四半期は161百万円の経常損失)となりました。また、負ののれん発生益65百万円を特別利益に計上するとともに、特別損失として情報セキュリティ対策費20百万円及び株式会社エックスワンの事務所移転費用20百万円を計上したこと等により、四半期純利益104百万円(前年同四半期は140百万円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

第1四半期連結会計期間において、株式会社エックスワンの連結子会社化の影響等に伴い、資産及び負債が増加しております。

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ729百万円増加し、3,839百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金332百万円増加、商品205百万円増加、前払費用の増加等による流動資産「その他」116百万円増加、ソフトウェア仮勘定の増加等による無形固定資産「その他」77百万円増加によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ577百万円増加し、2,906百万円となりました。これは主に、買掛金368百万円増加、預り金の増加等による流動負債「その他」135百万円増加、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)148百万円増加、短期借入金100百万円減少によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ151百万円増加し、932百万円となりました。これは主に、少数株主持分46百万円増加、四半期純利益104百万円の計上によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ90百万円減少し、389百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、103百万円(前年同四半期は410百万円増加)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益45百万円、仕入債務の増加額362百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加額283百万円、たな卸資産の増加額32百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、237百万円(前年同四半期は48百万円使用)となりました。収入の主な内訳は、差入保証金の回収による収入72百万円であり、支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出33百万円、無形固定資産の取得による支出155百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出41百万円、差入保証金の差入による支出16百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果増加した資金は、42百万円(前年同四半期は356百万円使用)となりました。収入の内訳は、長期借入れによる収入200百万円であり、支出の主な内訳は、短期借入金の純減額100百万円、長期借入金の返済による支出51百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年1月期の第2四半期(累計)の業績予想については、最近の業績動向を踏まえて見直しを行った結果、平成26年3月12日に公表いたしました業績予想を修正しております。

なお、通期の業績予想に関しましては、平成26年3月12日に公表いたしました業績予想から変更はありません。詳細は平成26年9月3日付で別途開示いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当社は、平成26年2月3日に株式会社エクスワンの発行済株式の80%を取得したことに伴い、第1四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めております。

なお、株式会社エクスワンは当社の特定子会社に該当します。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	479,520	389,090
受取手形及び売掛金	627,604	959,757
商品	1,138,217	1,344,203
その他	100,623	216,741
流動資産合計	2,345,965	2,909,793
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	993	3,560
車両運搬具(純額)	3,869	2,279
工具、器具及び備品(純額)	43,281	49,604
建設仮勘定	-	20,205
有形固定資産合計	48,144	75,650
無形固定資産		
ソフトウェア	314,816	355,809
その他	17,771	95,199
無形固定資産合計	332,587	451,008
投資その他の資産		
投資有価証券	13,042	13,952
出資金	150	150
差入保証金	300,817	317,823
その他	69,388	70,870
投資その他の資産合計	383,398	402,795
固定資産合計	764,130	929,454
資産合計	3,110,096	3,839,248

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,245,784	1,613,877
短期借入金	630,000	530,000
1年内返済予定の長期借入金	67,700	136,300
未払金	160,027	240,271
未払法人税等	4,580	5,710
賞与引当金	1,000	5,863
ポイント引当金	273	1,666
その他	57,155	192,243
流動負債合計	2,166,522	2,725,933
固定負債		
長期借入金	-	80,000
繰延税金負債	5,003	4,594
その他	157,230	95,735
固定負債合計	162,233	180,329
負債合計	2,328,755	2,906,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	769,775	769,775
資本剰余金	709,775	709,775
利益剰余金	△538,186	△433,638
自己株式	△182,230	△182,230
株主資本合計	759,132	863,680
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,661	3,252
その他の包括利益累計額合計	2,661	3,252
新株予約権	16,388	16,388
少数株主持分	3,157	49,663
純資産合計	781,340	932,984
負債純資産合計	3,110,096	3,839,248

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)
売上高	7,299,841	10,786,008
売上原価	6,437,018	8,923,088
売上総利益	862,823	1,862,919
販売費及び一般管理費	1,027,702	1,852,657
営業利益又は営業損失(△)	△164,879	10,261
営業外収益		
受取利息	141	42
受取配当金	705	71
為替差益	12,350	97
預り金整理益	-	4,420
償却債権取立益	-	12,807
その他	983	4,882
営業外収益合計	14,181	22,321
営業外費用		
支払利息	11,237	5,934
その他	-	345
営業外費用合計	11,237	6,279
経常利益又は経常損失(△)	△161,935	26,303
特別利益		
出資金売却益	118,882	-
負ののれん発生益	-	65,224
特別利益合計	118,882	65,224
特別損失		
固定資産売却損	-	48
投資有価証券評価損	21,474	-
減損損失	1,775	5,164
解約違約金	29,442	-
過年度関税	47,458	-
情報セキュリティ対策費	-	20,978
事務所移転費用	-	20,042
特別損失合計	100,151	46,234
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	△143,204	45,293
法人税等	65	△50,194
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△143,270	95,488
少数株主損失(△)	△2,820	△9,060
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△140,450	104,548

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△143,270	95,488
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,911	590
為替換算調整勘定	15,302	-
その他の包括利益合計	36,213	590
四半期包括利益	△107,056	96,078
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△104,236	105,139
少数株主に係る四半期包括利益	△2,820	△9,060

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年2月1日 至平成26年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△143,204	45,293
減価償却費	82,438	90,992
減損損失	1,775	5,164
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△23,012	-
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,449	2,916
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△1,687	1,393
受取利息及び受取配当金	△846	△113
支払利息	11,237	5,934
固定資産除売却損益(△は益)	-	48
負ののれん発生益	-	△65,224
出資金売却益	△118,882	-
投資有価証券評価損益(△は益)	21,474	-
解約違約金	29,442	-
売上債権の増減額(△は増加)	△139,080	△283,767
たな卸資産の増減額(△は増加)	△73,666	△32,644
仕入債務の増減額(△は減少)	603,940	362,028
長期未収入金の増減額(△は増加)	233,303	-
その他	△55,279	△8,785
小計	426,501	123,237
利息及び配当金の受取額	846	113
利息の支払額	△11,227	△6,227
法人税等の支払額	△5,668	△13,153
営業活動によるキャッシュ・フロー	410,452	103,970
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,290	△33,403
有形固定資産の売却による収入	-	740
無形固定資産の取得による支出	△44,440	△155,472
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△41,993
差入保証金の差入による支出	△669	△16,891
差入保証金の回収による収入	-	72,234
その他	△2,358	△62,409
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,758	△237,196
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△257,608	△100,000
長期借入れによる収入	-	200,000
長期借入金の返済による支出	△92,800	△51,400
配当金の支払額	△155	△69
その他	△5,587	△5,734
財務活動によるキャッシュ・フロー	△356,151	42,796
現金及び現金同等物に係る換算差額	△53,812	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△48,269	△90,429
現金及び現金同等物の期首残高	205,918	479,520
現金及び現金同等物の四半期末残高	157,648	389,090

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年2月1日 至 平成25年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,351,995	947,846	7,299,841	—	7,299,841
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,351,995	947,846	7,299,841	—	7,299,841
セグメント利益又は損失(△)	△220,139	55,259	△164,879	—	△164,879

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と一致しております。
2. その他事業は、中国における塗料、太陽電池関係部材等の販売、食品添加物等の販売事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失はありません。また、のれん等に関する情報について該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年2月1日 至 平成26年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,026,580	759,427	10,786,008	—	10,786,008
セグメント間の内部売上高又は振替高	18,276	—	18,276	△18,276	—
計	10,044,857	759,427	10,804,284	△18,276	10,786,008
セグメント利益又は損失(△)	89,374	△77,069	12,305	△2,043	10,261

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
2. その他事業は、会員制無店舗販売事業であります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、新たに株式を取得した株式会社エクスワンを連結の範囲に含めております。これにより前連結会計年度の末日に比べ、当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額はその他事業において588,683千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

その他事業において、事務所の移転に伴い、今後使用見込みのない資産全額を減損処理したことにより、5,164千円を減損損失として特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

その他事業において、第1四半期連結累計期間に株式会社エックスワンの発行株式の80%を取得したことにより連結子会社となりました。

この結果、61,878千円の負ののれん発生益を計上しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。